

## 建築史 (History of Architecture III)

担当教員名	東野 アドリアナ	
学科・専攻、科目詳細	建築学科 5年 前期 2単位 学修A 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	B-2(50%) C-1(20%) H-1(30%)
	JABEE基準1(1)	(a)(b)(d)
科目的概要	20世紀を中心に日本や西洋の近代建築について論ずる。本講義では講師の話を聞くだけではなく学生が自ら講義を行います。近代建築について調査し、スライドにまとめて、授業の中で発表する。近代建築が確立するまでの様々な造形理念を時系列的に紹介し、近代社会が求めた「人類に普遍的な価値」が建築においてどのように帰結したか、またそのことへの批判から様々な方向に広がるポストモダンと呼ばれる状況までの過程を講義する。また近代建築を成立させた構造技術も合わせて理解させる	
テキスト(参考文献)	鈴木博之他著「近代建築史」市ヶ谷出版社	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。	
科目的達成目標	<p>(1) 近代社会の根底にある「人類に普遍的な価値」が西洋世界に於いて建築ではどのような造形として成立したかを理解するとともに、それが世界に拡大する過程で生じた地域文化との軋轢のなかで、世界が多様な建築文化で成り立っていることを理解する(B-2)。</p> <p>(2)近代社会に生きる建築家たちが、都市問題や住宅問題に取り組んだ建築家の倫理観についても触れ、そのことの意義を理解する(C-1)。</p> <p>(3)歴史上、建築構造学が土木工学を含めた広い技術から生じたこと理解し隣接分野への関心を持たせる(H-1)。</p> <p>目標を達成するために自己学習が必要である。必ず教科書を読書し、近代建築について調べる。</p>	
自己学習	近代建築史をテーマに分け、当てられたテーマについて調べ、それをまとめて発表をする。各学生にはテーマ2つを担当するので、発表が2回あります。そして、近代建築の研究対象事例を選んで、見学、研究をして、成果を動画形式レポートにまとめる。	
目標達成度(成績) の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	<p>)と2):近代建築史にあらわれた代表的な建築理念を理解し、モダンデザインの成立過程を理解することと近代建築家の社会的な取り組み理解することを2回の定期試験問題で確認、評価する(B-2、C-1、H-1)(20%)。</p> <p>3)近代建築の代表作一点を自らの視点を明らかにした上で、批評レポートを作成し発表する。論理的な展開の明快さで評価する(B-2、C-1、H-1)(60%)。</p> <p>総合評価として60%以上達成した者を合格とする。</p>	
連絡先	adriana@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容
第1週 講義進行説明、発表範囲を分ける
第2週 第1編 西洋近代： 第1章 近代化の衝撃
第3週 第2編 日本近代： 第1章 開国(1854)から維新期(1868)
第4週 第1編 西洋近代： 第2章 近代建築の模索
第5週 第2編 日本近代： 第2章 洋風建築の本格的導入
第6週 第1編 西洋近代： 第3章 近代運動の推進力
第7週 第2編 日本近代： 第3章 住宅建築と都市
第8週 (中間試験)
第9週 第2編 日本近代： 第4章 近代都市のなかの建築
第10週 第1編 西洋近代： 第5章 國際化社会と多様性の萌芽
第11週 第2編 日本近代： 第5章 近代建築の導入
第12週 第2編 日本近代： 第6章 日本から世界へ
第13週 第3編 現代建築： 第1章 1960年代： 世界と日本の共振
第14週 第3編 現代建築： 第2章 1970年代： モダニズムの反省
第15週 第3編 現代建築： 第3章 1980年代： ポストモダンの開化、 第4章 1990年代以降のグローバル化
期末試験